

新型コロナワクチン小児接種Q&A（保護者の方へ）

Qなぜ、小児（5～11歳）への接種が行われるの？

A 小児においても中等症や重症例が確認されており、特に基礎疾患を有する等、重症化するリスクが高い小児には接種の機会を提供することが望ましいとされています。また、今後様々な変異株が流行することも想定されるため、厚生労働省の審議会で議論された結果、小児を対象にワクチン接種を行うこととされました。

Qなぜ小児接種は「努力義務」が適用されていないの？

A 小児用のワクチンは、臨床試験等から有効性や安全性が確認されていること、海外でも広く接種が進められていること等を踏まえ、日本でも接種が行われることになっています。

しかし、小児については、現時点において、オミクロン株に対するエビデンスが確定的でないことも踏まえ、小児について努力義務の規定は適用せず、今後の最新の科学的知見を踏まえ、改めて議論することが適当であるとされています。

Q小児接種は、どのような効果があるの？

A ファイザー社のワクチンは、5～11歳の小児においても、デルタ株等に対して、中和抗体価の上昇や発症予防効果が確認されており、2回目接種後7日以降の発症予防効果は、90.7%と報告されています（※）。

※オミクロン株に対する効果については、今後のデータの集積を待って評価する必要があります。

Q基礎疾患があっても接種して大丈夫？

A 基礎疾患がある子どもなど、特に重症化リスクの高い方には接種が勧められています。かかりつけ医とよく相談しながら、接種をご検討ください。

5～11歳を対象とした臨床試験では、肥満や喘息、神経疾患、先天性心臓疾患等の基礎疾患がある方も含めて試験が実施され、ワクチン接種の有効性が確認されています。また、安全性についても、評価された例数に限りがあることに留意する必要がありますものの、被験者全体における結果と同様であったことが確認されています。

新型コロナワクチンの接種にあたり考慮すべき小児の基礎疾患等は、こちら
(日本小児科学会)

https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=409



Qどのような副反応があるの？

A 12歳以上の方と同様、接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱等、様々な症状が確認されていますが、殆どが軽度又は中等度であり回復していること、現時点で得られている情報からは、安全性に重大な懸念は認められていないと判断されています。

■数日以内に起こることがある症状

症状が出た人の割合	症状
50%以上	注射した部分の痛み、疲れた感じ
10～50%	頭痛、注射した部分の赤み・はれ、筋肉痛、寒気
1～10%	下痢、発熱、関節痛、嘔吐

Q保護者が気を付けることは？

A ワクチン接種後数日以内は、接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱等の症状がみられることが多いため、このような症状に注意しながら過ごす必要があります。

また、海外では、ごく稀ですが接種後に軽症の心筋炎を発症した例が報告されています。接種後4日程度の間、胸の痛みや動悸、息切れ、むくみなどの症状がみられた場合は、速やかに医療機関を受診し、ワクチンを接種したことを伝えてください。

Q接種時に必要なものは？

A 5～11歳のワクチン接種では、原則、保護者の同伴が必要となります。また、未就学児の子ども接種履歴は母子健康手帳で管理しているため、特にこの年代の方は、接種当日は可能な限り、母子健康手帳の持参をお願いします。

■相談先等

新型コロナワクチン施策の在り方について	厚生労働省新型コロナワクチンコールセンター 電話番号：0120-761-770（フリーダイヤル） 受付時間：9:00～21:00（土日祝日を含む）
接種後の副反応について	愛媛県新型コロナワクチンコールセンター 電話番号：0120-567-231（フリーダイヤル） 受付時間：24時間対応（土日祝日含む）
接種の予約や接種会場等について	お住まいの市町の相談窓口

小児接種の有効性・安全性などの詳しい情報は、こちら（厚生労働省HP）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_for_children.html



（令和4年3月9日時点の厚生労働省ホームページを元に愛媛県作成）